



千葉労働動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

95.12.11 No. 4309

12月ダイヤ改阻止 闘争に勝利したぞ

「ダメメ」をつけてる

一二月ダイヤ改阻止の七二Hストライキは、一つは、企業として何一つメリットのないことをJR総連という、特定の労働組合に肩入れして、動労千葉の勝浦支部を破壊するという意図を露骨にだしながらの攻撃に対して、動労千葉としてちゃんとケジメをつけるということがひとつの重要な柱でした。

もう一つは、永い人では一〇年ちかい強制配転・塩漬け状態に対して、原職復帰・奪還を要求するという、この二つを大きな柱として、異様極まりないJR東日本とJR総連革マルによる不当労働行為を徹底的に弾劾する、そうゆう闘いとして七二Hストライキは設定されました。そして、九五年の動労千葉の闘いの一つの区切りとしての集大成、一年を集約する闘いとしてあると同時に、もう一つは、九六年の国鉄闘争が最大の正念場を迎えるという認識のもとにそれに向けての決意を固めた闘いでした。

いづれにしても日本の労働者全体が、大失業時代の到来という状況下にいやおうなしに入る中で、その大失業時代に労働者が団結を強め本来の労働組合の力をとりもどして、そして、「反撃にたちあがろう」というメ

ッセージを込めた闘いとしてもありました。

JR体制に 大打撃

七二Hストライキをうちぬいて起こったことは、なによりも動労千葉の組織が、かつてなく活性化をして、団結が強まったということだ。

また、一一・五大失業時代を撃つ全国労働者集会の三千名結集の成功にひきつづく闘争だったということも含めて、首都圏をはじめ多くの労働者に大変なインパクトを与えた闘争でした。そして、何よりもJR体制に大変なダメージを与えました。当初は、勝浦運転区廃止のやり方などを見ても、ある種の挑発的な攻撃をしかけてきた、「くやしかったらストライキでもなんでもやってみる」こういう感じのやり方、それを、あえて動労千葉はうけてたち、七二Hストライキの方針を決定したとたんに、その関係が大きく逆転して、JR体制が対応不能な状況に迫りました。

動労千葉が七二Hのストライキの戦術を決定したとたんに、JR当局側が、「分割・民営化後最大規模のストライキであり、一〇〇〇本の運休がでる」と悲鳴をあげざるをえなかったのです。

実質上ストライキ過程でも今までみたいに、JR総連革マルを手先につかっつて、一体となつて、ありとあらゆる不当な攻撃をしかけてくるということがまತ್ತたくできませんでした。

新たな 闘いへ

総じて、一二月ダイヤ改阻止の七二Hストライキは、勝浦運転区廃止をとをした、勝浦支部の破壊、動労千葉の団結を破壊するという敵の攻撃をはねかえし、鴨川支部の結成をはじめ、闘いをおして新たな闘いへの団結を打ち固めたと同時に、九六年、決戦の国鉄闘争をひかえてそれを闘い抜く体制をつくりあげました。

すべての組合員の皆さん！さらなる勝利へ、「JR体制」打倒！JR総連解体へ、全力で闘おう！

7線区で120本が運休

4万6700人が



11/28集会と
新聞報道



72時間スト突入 勝浦運転区廃止などに反対

新たな10万人合理化粉碎！労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう！

12/2 「朝日」千葉版
11/29 朝日新聞
7線区で120本が運休
4万6700人が
11/28集会と新聞報道
11/28 動労千葉総決起集会
11/28 勝浦支部の前進を
11/28 勝浦支部の前進を
11/28 勝浦支部の前進を